

2024年12月期

決算補足説明資料



株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しております。
- ✓ 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2024年12月期 決算概要

2. 2025年12月期 業績予想

3. 配当金について

4. 決算説明動画のご案内

(補足資料)テクノフレックスの概要



▲ 2024年11月に完成した北海道工場

1. 2024年12月期 決算概要

◆ 連結業績(前期比・予想比)

単位:百万円

	連結業績		前期比		通期予想比	
	2023年	2024年	伸長額	伸長率	計画値	達成率
連結売上高	21,242	22,041	798	3.8%	23,000	95.8%
連結営業利益	1,482	2,196	713	48.2%	2,300	95.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	966	1,313	346	35.9%	1,500	87.5%

● 連結売上高

- ✓ 防災・工事事業と自動車・ロボット事業が減収でしたが、海外の半導体関連市場を中心に継手事業の真空機器が売上を伸ばし、連結売上高が増収となりました。

● 連結営業利益

- ✓ 自動車・ロボット事業は減益でしたが、他の事業セグメントは増益であったため、連結営業利益が増益となりました。

● 親会社株主に帰属する四半期純利益

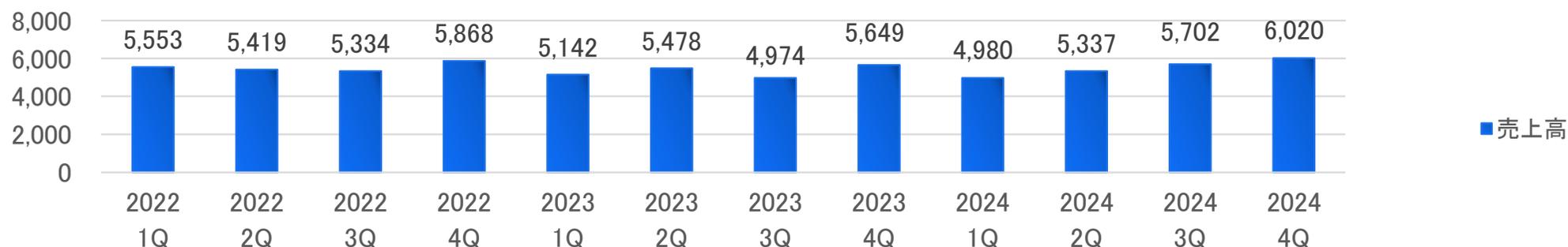
- ✓ 連結営業利益の増加により、増益となりました。

2024年12月期 連結業績 2 四半期業績の推移



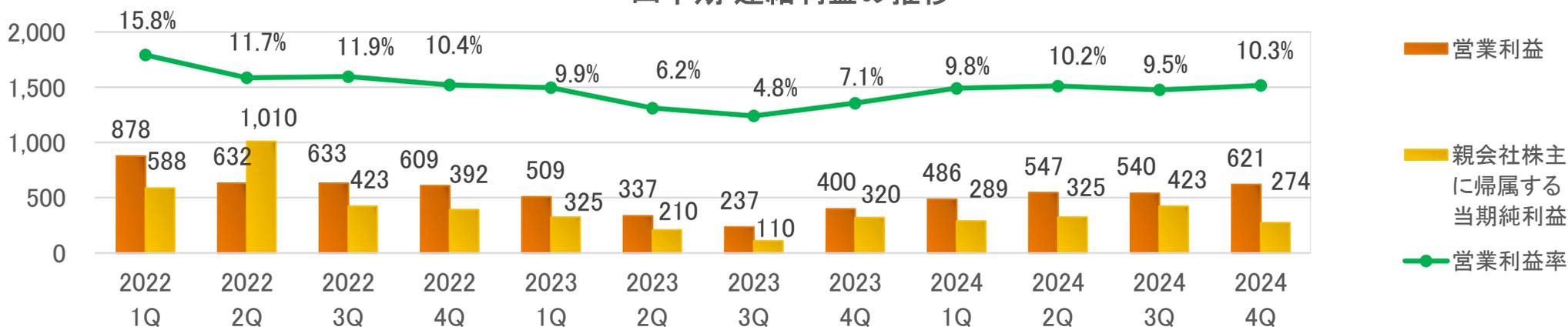
四半期 連結売上高の推移

単位: 百万円



四半期 連結利益の推移

単位: 百万円



- 四半期業績は、半導体工場の設備投資や再開発事業等の大型案件を計上するタイミングで、大きく変動します。
- 2022年 2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。

2024年12月期 連結業績 3 海外売上高



◆ 海外売上高は、前期まで連結売上高の10%未満で推移していたため開示していませんでしたが、当期は、海外で半導体関連を中心に売上が増加し、海外売上高が連結売上高の10%を超えましたので、決算短信において地域別の海外売上高を開示いたしました。

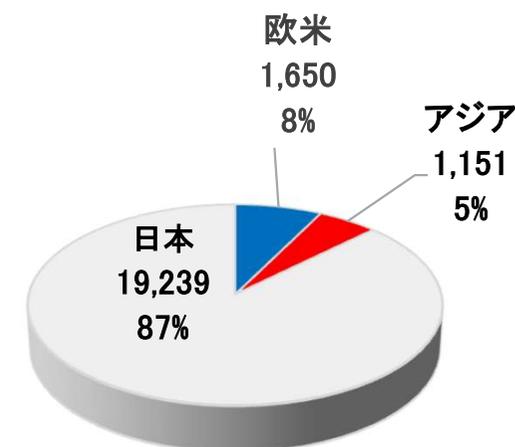
◆ 海外売上高の約90%は、真空機器の売上です。

◆ 当期に売上が最も増加した海外の販売先は、米国の水素エネルギー関連企業です。同販売先は、半導体工場やデータセンター等に設置する水素発電装置等で業績を伸ばしており、当期、同販売先への売上高は、前期の約3倍に増加しました。売上増加の主な要因は、以下の通りです。

- ① 海外で半導体工場やデータセンターへの設備投資が盛んである。
- ② 当社グループの上海工場は、米中間において関税がかかることの課題について、同販売先に対し、ベトナム工場からの輸出にシフトするという改善策を提案し対応。一方、ライバルの中国メーカーは対応できず、シェアアップに成功した。

地域別の海外売上高

(単位:百万円)



海外比率
13%

【ご参考】

- 海外売上高は、会計基準に従い、当社グループから**直接海外顧客へ販売**した売上高を、販売地域ごとに集計しています。そのため、国内の最終品メーカーへ販売した製品が、顧客の製品に部材として組み込まれて海外へ販売される場合等、国内顧客を介した**間接的な海外への販売**は、上記の海外売上高に含んでおりません。
- 間接的な海外への販売を含めた場合、海外比率は更に高くなるものと推測されますが、顧客の販売先を特定することが困難なため、実態を把握できておりません。

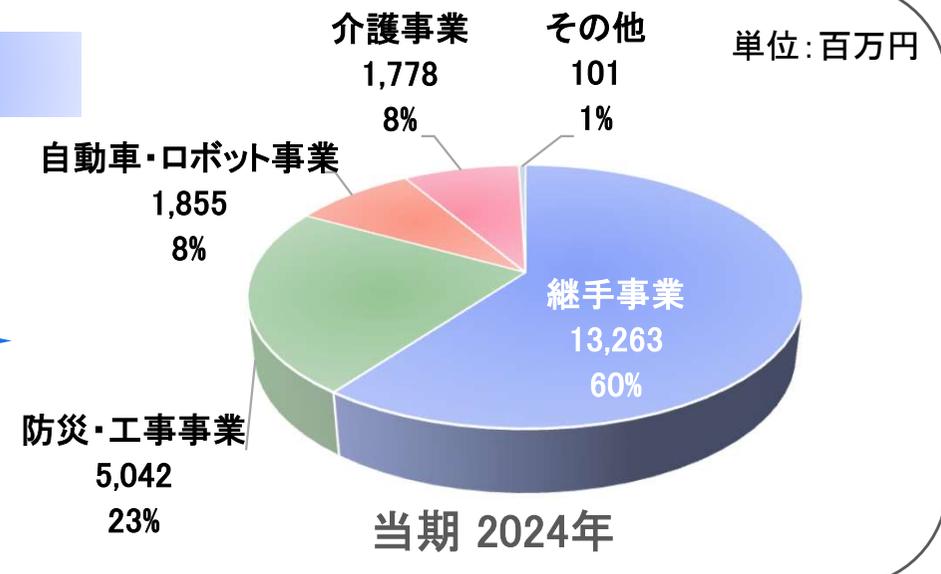
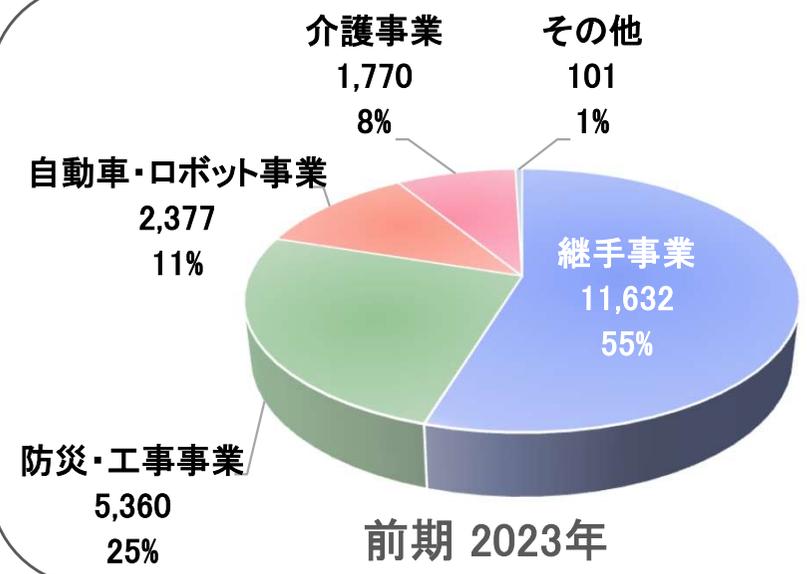
間接的に海外へ販売されている製品例

継手事業	真空機器(半導体製造装置・医療用診断装置等に使用)
自動車・ロボット事業	金属加工部品(自動車・産業用ロボット等に使用)

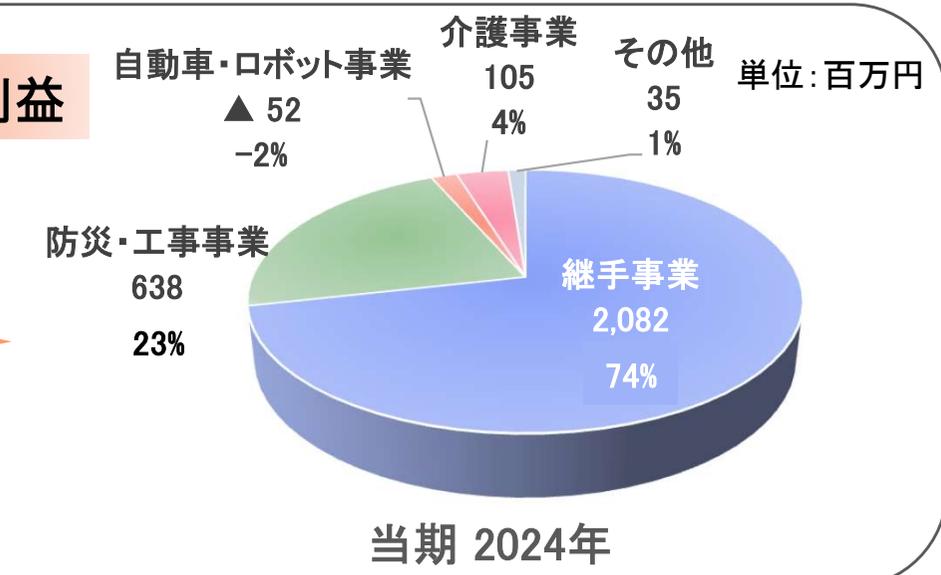
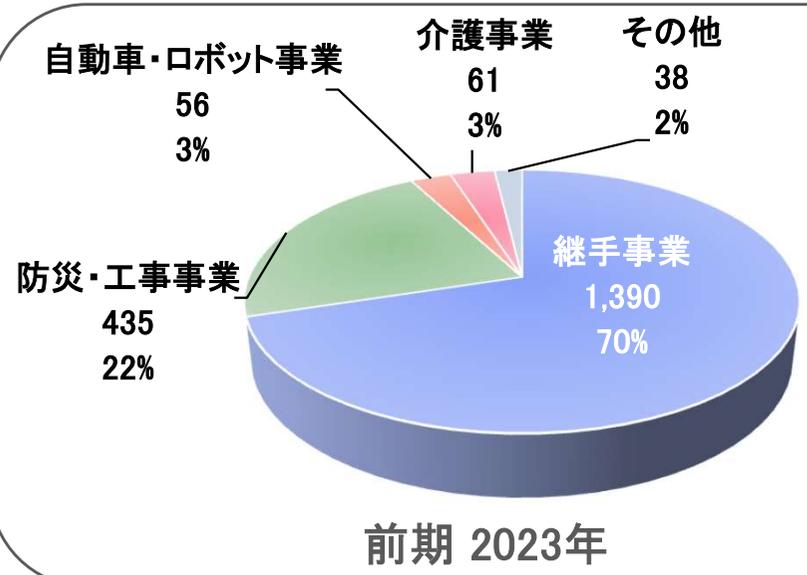
2024年12月期 セグメント構成比



売上高



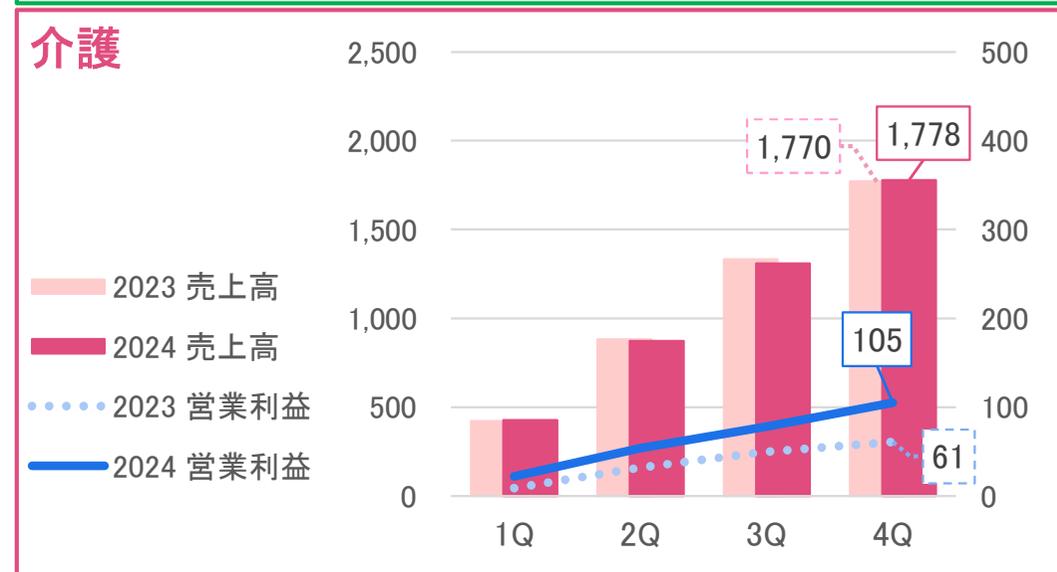
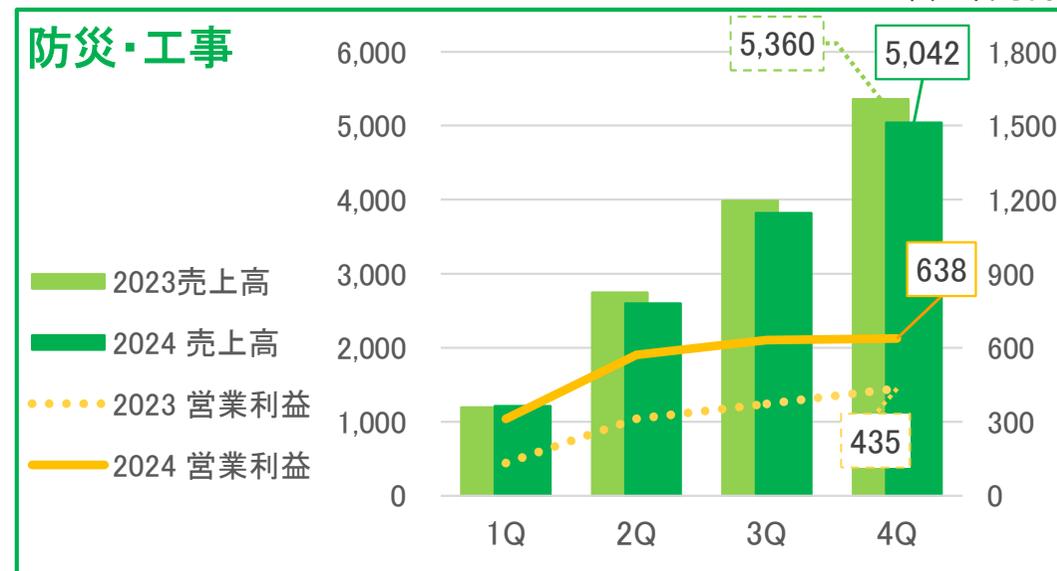
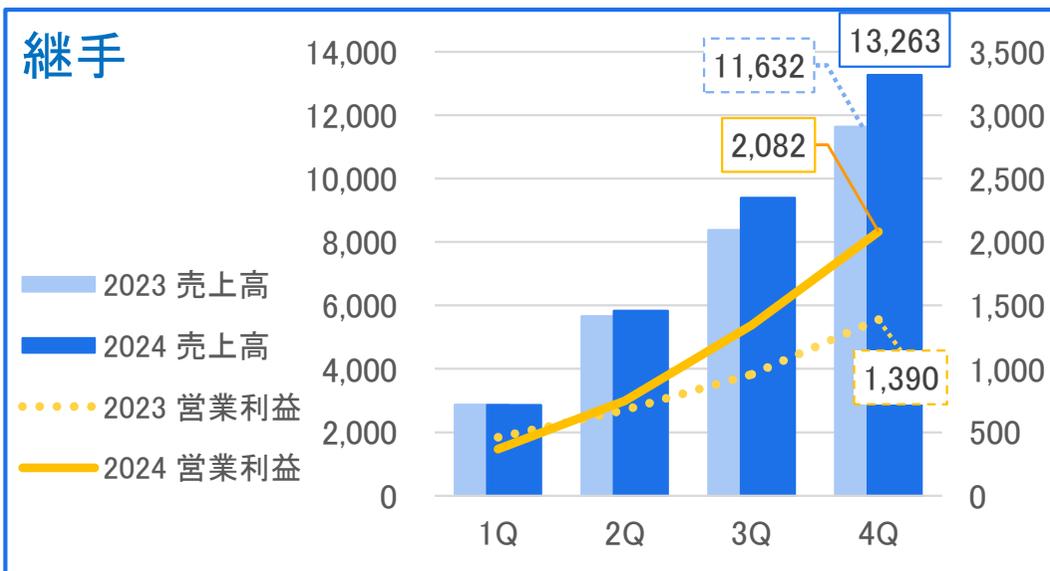
セグメント利益



2024年12月期 セグメント業績 前期比(累計)



単位: 百万円



- 売上高は、継手事業と介護事業が増収、防災・工事事業と自動車・ロボット事業が減収でした。
- 営業利益は、自動車・ロボット事業が営業損失を計上しましたが、他の3セグメントは増益でした。

◆ 継手事業

売上高の推移



営業利益の推移



■ 売上高 13,263百万円 (前期比 +1,630百万円、+14.0%)

■ 営業利益 2,082百万円 (前期比 +692百万円、+49.8%)

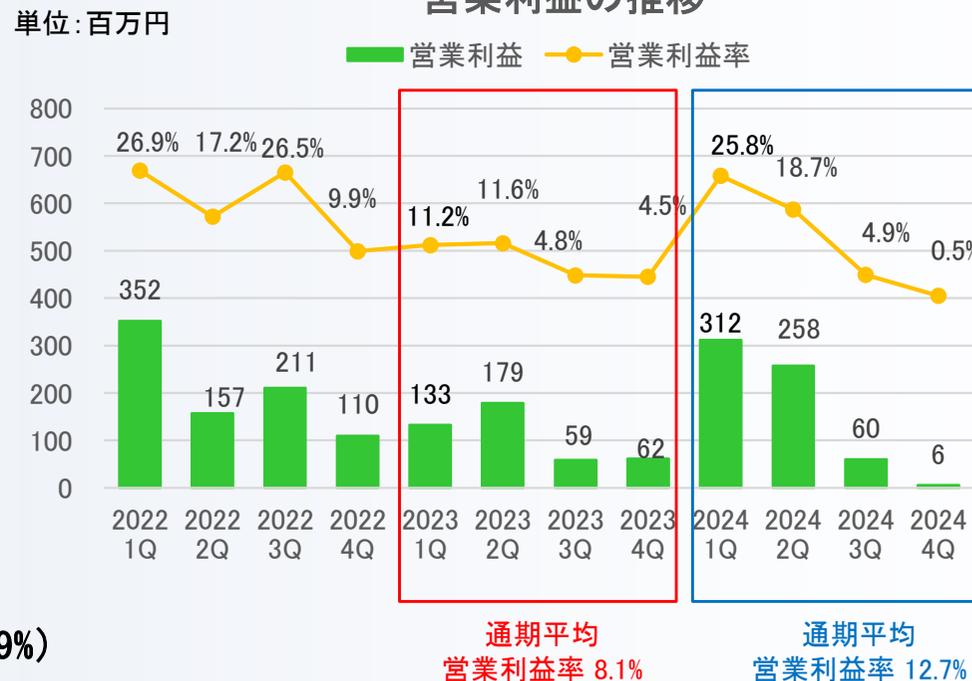
- 世界的な半導体需要の高まりから、海外の真空機器を中心に売上を伸ばし、増収増益となりました。
- 真空機器の売上が増加したこと、適正利益の確保に努めたこと等から、利益率が回復してまいりました。
- 北海道の先端半導体工場の関連では、当期の終盤から真空機器の出荷が始まりましたが、期中の売上は限定的でした。
- フレキシブル継手と伸縮管継手は、前年並みでした。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移



営業利益の推移



■ 売上高 5,042百万円 (前期比 ▲318百万円、▲5.9%)

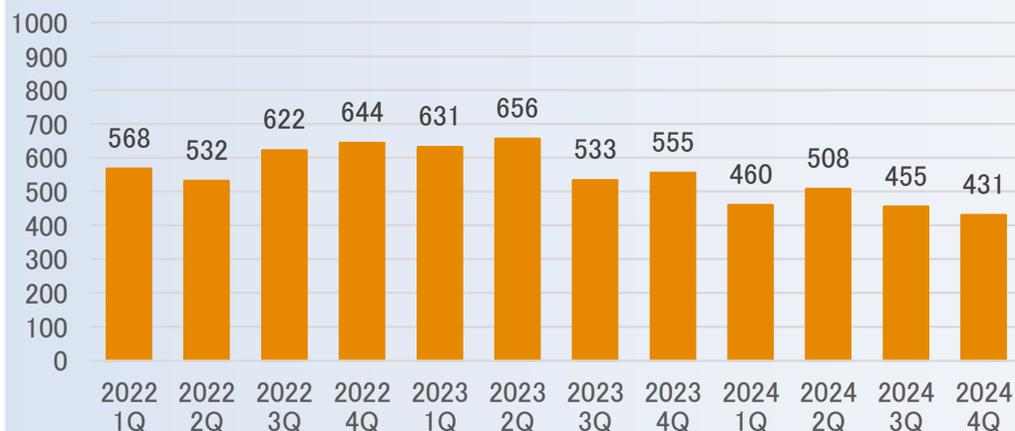
■ 営業利益 638百万円 (前期比 +202百万円、+46.5%)

- 上期は、九州と北海道の半導体工場における消防設備工事等により利益が増加しましたが、下期は利益率の低い工事案件を含むため、上期と下期で利益に差が生じましたが、通期の平均利益率は12.7%となり、前期の8.1%から改善しました。
- 北海道の半導体工場では、当期2Qから消防設備工事を、当期4Qから真空配管工事と真空配管加工を、それぞれ開始しています。

◆ 自動車・ロボット事業

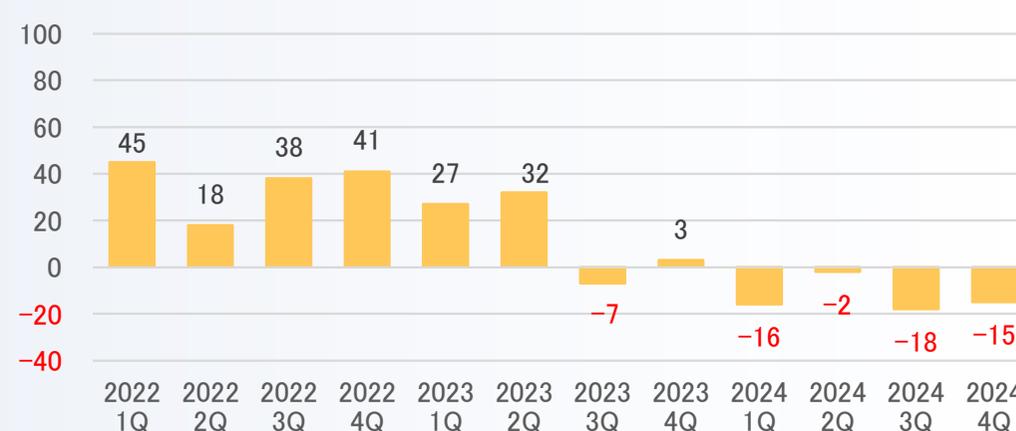
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円



■ 売上高 1,855百万円 (前期比 ▲522百万円、▲22.0%)

■ 営業損失 52百万円 (前期の営業利益 56百万円)

- 自動車分野、ロボット分野共に、減収となりました。
- 特にロボット分野は、大口顧客の在庫調整が長期化しており、厳しい状況が続いております。
- 当事業セグメント全体では、ロボット分野の業績低迷による影響が大きく、減収・減益(営業損失を計上)となりました。

◆ 介護事業



■ 売上高 1,778百万円 (前期比 +8百万円、+0.5%)

■ 営業利益 105百万円 (前期比 +44百万円、+72.7%)

➤ 売上高は、前期比で横ばい微増でした。

➤ 営業利益は、拠点の統廃合による営業効率の向上等、販管費削減効果により利益が回復し、前期比 +72.7%増となりました。

2. 2025年12月期 業績予想

2025年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位:百万円

	2Q累計(中間期)		通期	
	2024年 業績	2025年 予想	2024年 業績	2025年 予想
連結売上高	10,318	11,800 (+14.4%)	22,041	23,000 (+4.3%)
連結営業利益	1,034	1,100 (+6.4%)	2,196	2,400 (+9.3%)
親会社株主に帰属する 中間/当期純利益	615	700 (+13.8%)	1,313	1,650 (+25.7%)

● 連結売上高

- 2025年12月期は、継手事業の3分野(フレキシブル継手、伸縮管継手、真空機器)それぞれが売上を伸ばし、グループ全体の売上を牽引する見込みです。

● 連結営業利益

- 2025年12月期は、2024年12月期に完成した工場(北海道工場、新千葉工場)の建物、設備の償却負担が発生しますが、北海道工場では、2025年12月期の前半において、投資効果が見込まれます。一方、新千葉工場においては、海外工場からの製造移管等、中期的な課題を持ちながら、最新鋭の設備投資を行い、生産性の追求を進めてまいります。

● 親会社株主に帰属する当期純利益

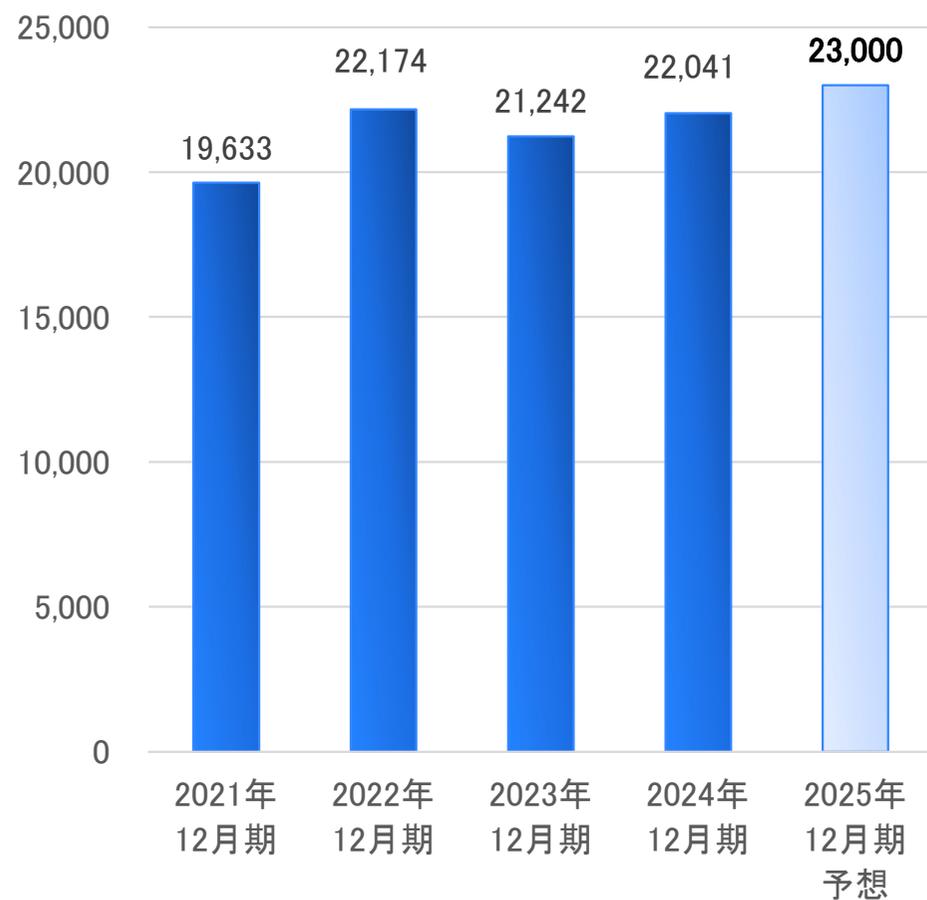
- 営業利益の増加に伴う増益を見込んでいます。

2025年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



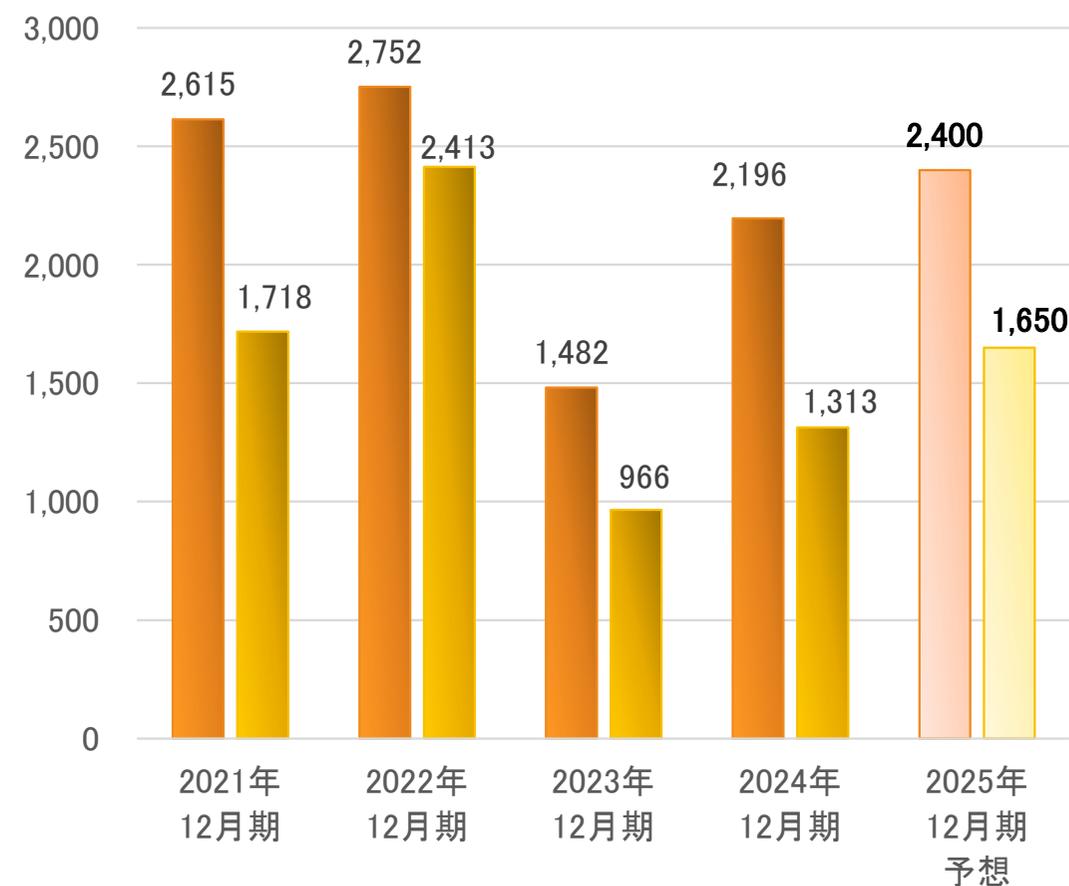
単位:百万円

連結売上高



単位:百万円

連結営業利益 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 継手事業

- フレキシブル継手
2024年12月期は売上が低調でしたが、終盤から回復してまいりました。2025年12月期は受注が戻り、増収を見込んでいます。
- 伸縮管継手
設備の増強と技術の高度化を進め、顧客ニーズを捉えた製品展開で、マーケットを拡大してまいります。
- 真空機器
2025年12月期も、国内外の半導体関連市場で、売上を伸ばす計画です。
(国内市場) 北海道の先端半導体工場は上期に売上のピークを迎え、下期からは従来顧客の半導体工場設備投資が増加する見込みです。
(海外市場) 2024年12月期に売上を伸ばした海外市場は、2025年12月期も高い水準での推移が見込まれます。

◆ 防災・工事事業

- 上期は北海道の先端半導体工場の案件が、下期は従来顧客の半導体工場の案件が、売上に貢献する見込みですが、建設業界で全般的な工期の長期化が見られることから、全体では2024年12月期並みの業績となる見込みです。

◆ 自動車・ロボット事業

- ロボット分野で在庫調整が続き、当事業は2025年12月期も厳しい見込みとしていますが、同顧客の発表では前向きな内容も見受けられ、受注回復に備えてまいります。

◆ 介護事業

- 引き続き利益率の向上に努めると共に、売上高の増加に取り組んでまいります。

3. 配当金について

2024年12月期 と 2025年12月期の 配当予想



	1株あたり配当金		
	中間配当金	期末配当金	合計(年間配当)
2024年12月期	27円00銭	27円00銭 (予想)	54円00銭 (予想)
2025年12月期	27円00銭 (予想)	27円00銭 (予想)	54円00銭 (予想)

◆ 2024年12月期の配当予想

期初に開示いたしました通り、年間54円(中間27円、期末27円)の配当予想としております。
正式には、2025年2月25日開催の取締役会で決定する予定です。

◆ 2025年12月期の配当予想

2024年12月期を上回る利益を確保し、年間54円(中間27円、期末27円)の配当を維持する計画としております。

当社は、株主様に対する利益還元について、安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、将来の事業展開、業績の推移及び長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、並びに内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、安定的かつ継続的な配当に加え業績連動により年間配当性向40%以上を目標とすることを基本方針としております。

4. 決算説明動画のご案内

2024年12月期 決算説明動画のご案内



- ◆ 2024年12月期 決算説明動画の配信を、下記の通り予定しておりますので、ご案内申し上げます。

◆2024年12月期 決算説明動画の概要

- 公開日時 2025年2月28日(金)17:00(予定)
- 掲載場所 当社ホームページ内のIR資料ページ
- 説明者 代表取締役社長 前島 岳

- ◆ 動画は、どなたでもご視聴いただけます。
アナリスト・機関投資家に限定したものではありません。
- ◆ 2025年8月頃までの配信を予定しております。
- ◆ ご視聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

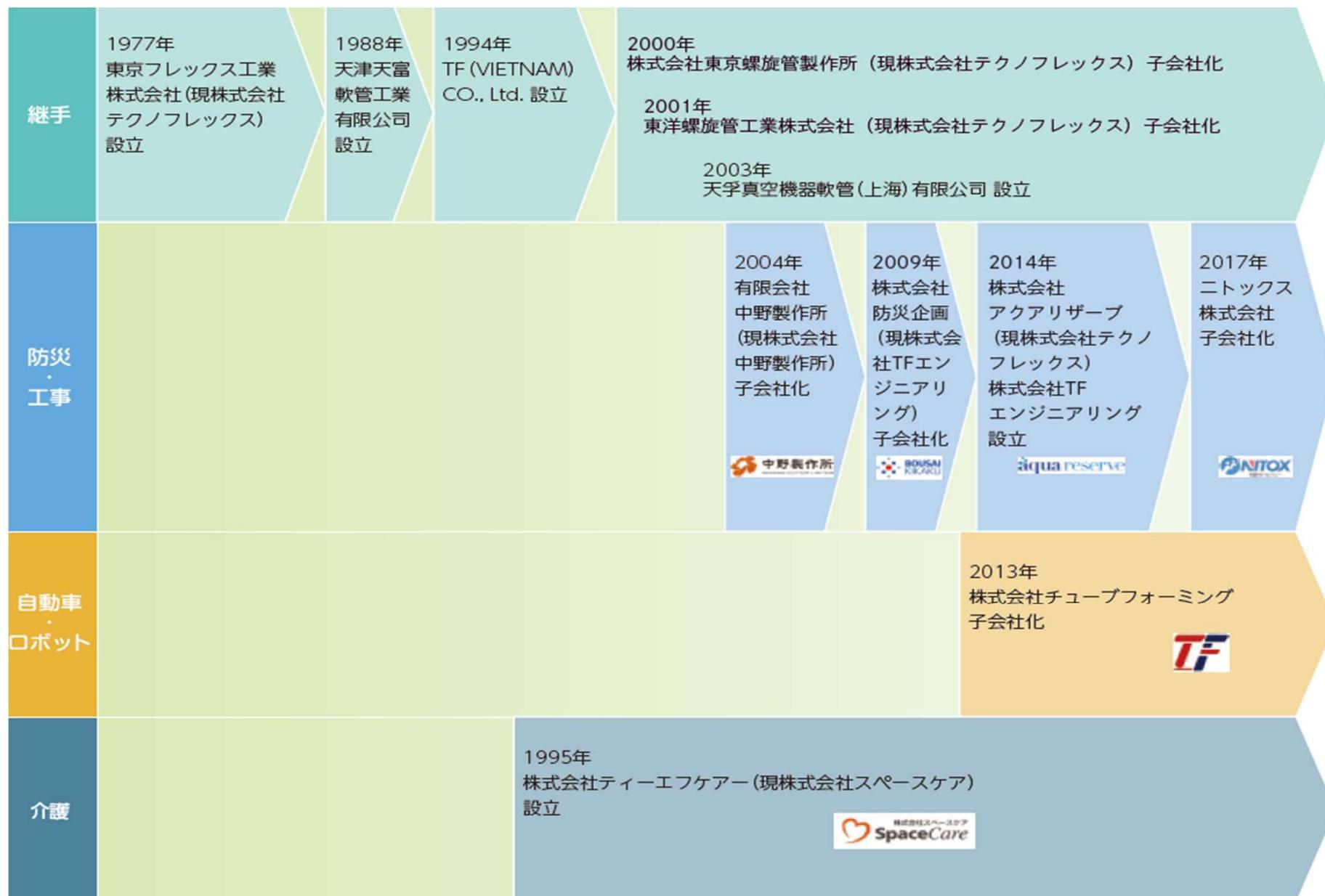


当社ホームページ

- トップページ <https://www.technoflex.co.jp/>
- IR資料 <https://www.technoflex.co.jp/ir/material.html>

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前1丁目5番1号
資本金	10億円(2024年12月31日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:358名(2024年12月31日現在) 連結:1,005名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

生活インフラ

- 水道・ガス
- 水道本管に挿入されるSDFフレキ
- エネルギー
- H₂ Station
- 水素ステーション

産業・先端技術

- 半導体
- 半導体工場
- 医療機器
- MRI装置
- 自動・無人化
- 産業用ロボット

介護

- トイレに後付けされた手摺り
- リフォーム
- 介護用ベッド・補助具
- 販売・レンタル
- いつも清潔な介護用品
- リネン

防災

- 断水時にマルチアクアから取水
- 風水害
- インテリジェントビル
- 地震
- スプリンクラー消火設備
- 火災

TECHNOFLEX GROUP

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



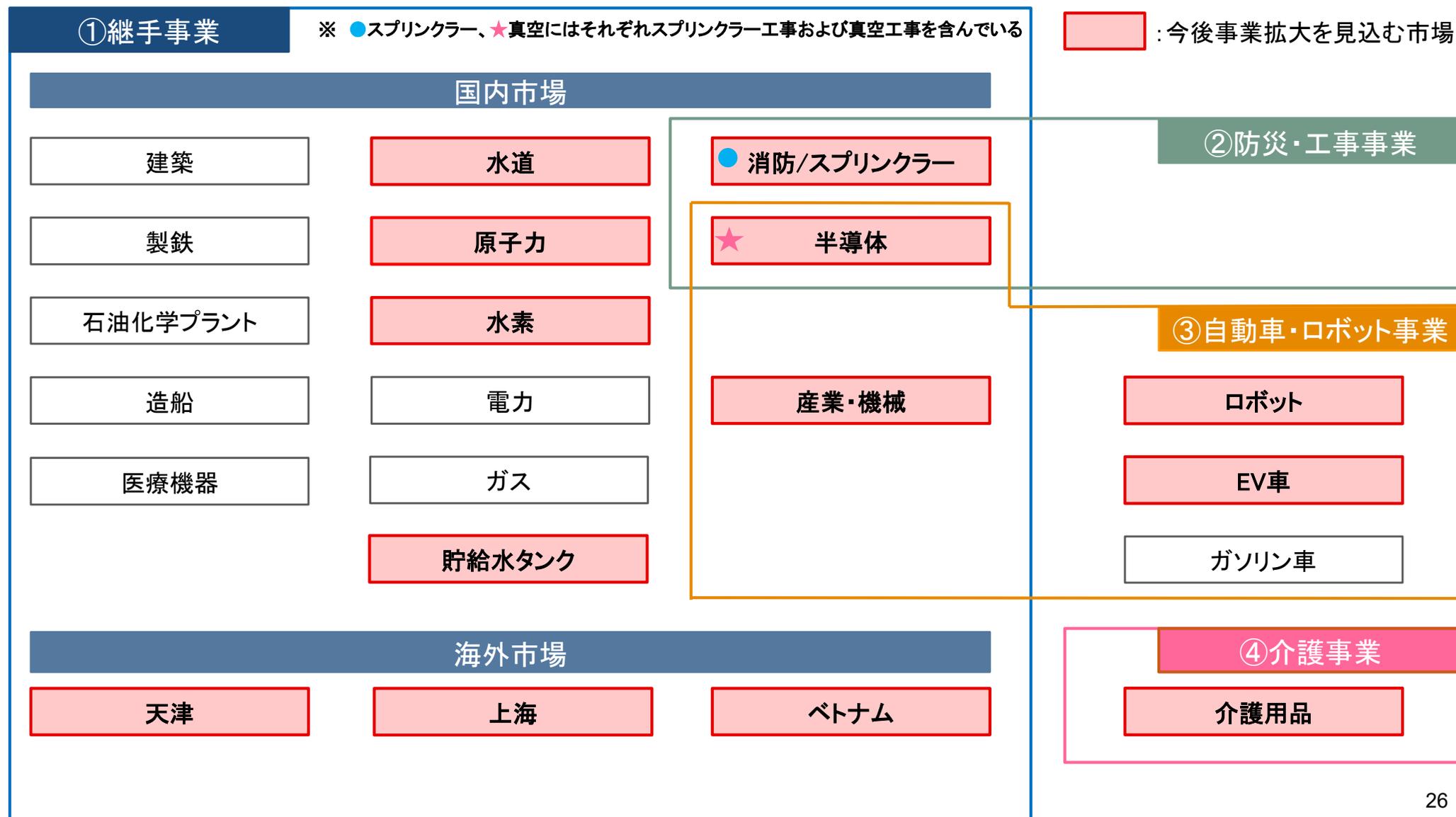
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売(介護)、海外市場が挙げられます



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

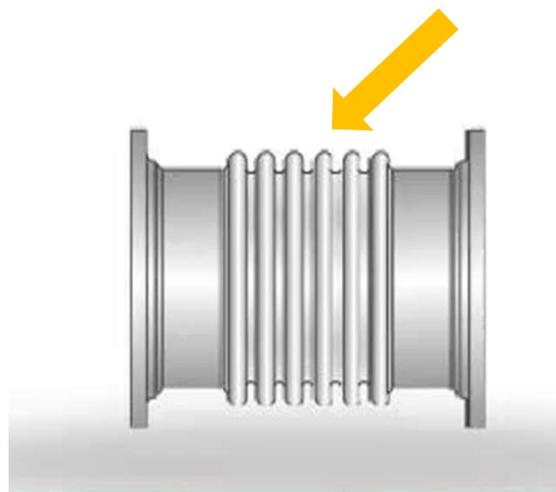
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

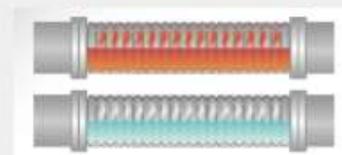
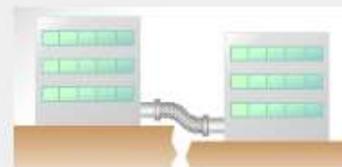


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

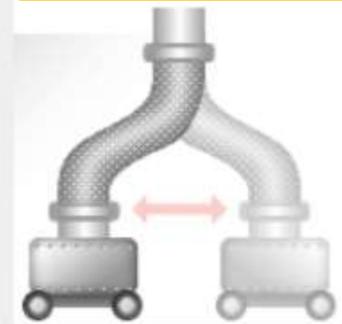
町のあちこちに
テクノフレックス



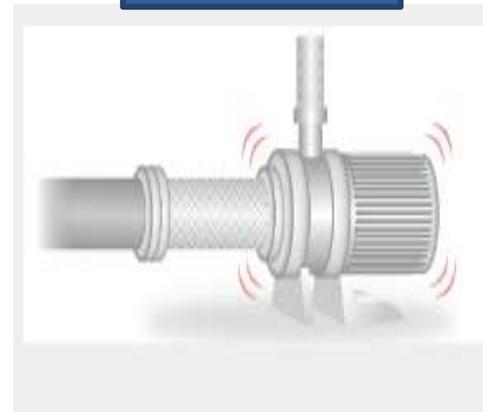
変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



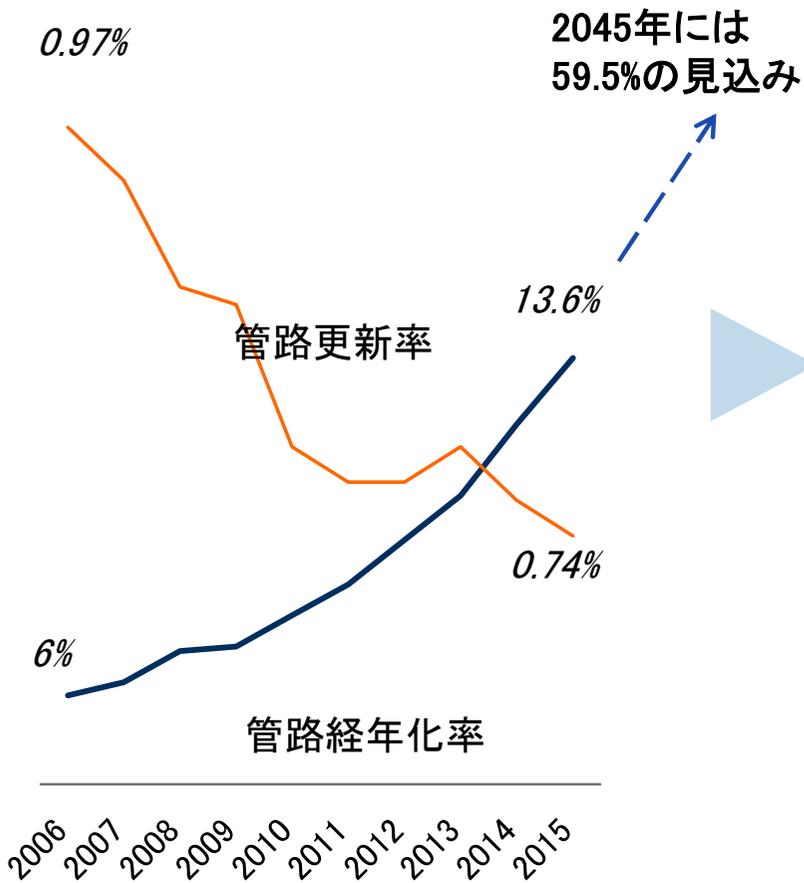
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。



SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

賞状

厚生労働大臣賞

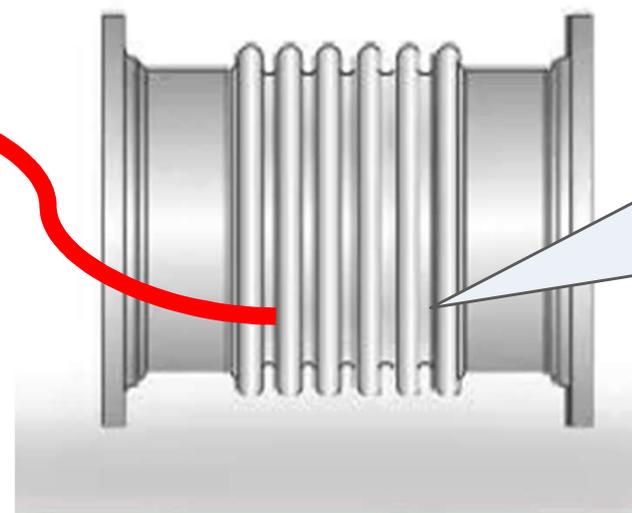
第1回インフラメンテナンス大賞
においてあなたの技術開発は
最も優秀と認められました
のてここに表彰します

平成二十九年七月二十四日

厚生労働大臣 塩崎恭久

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

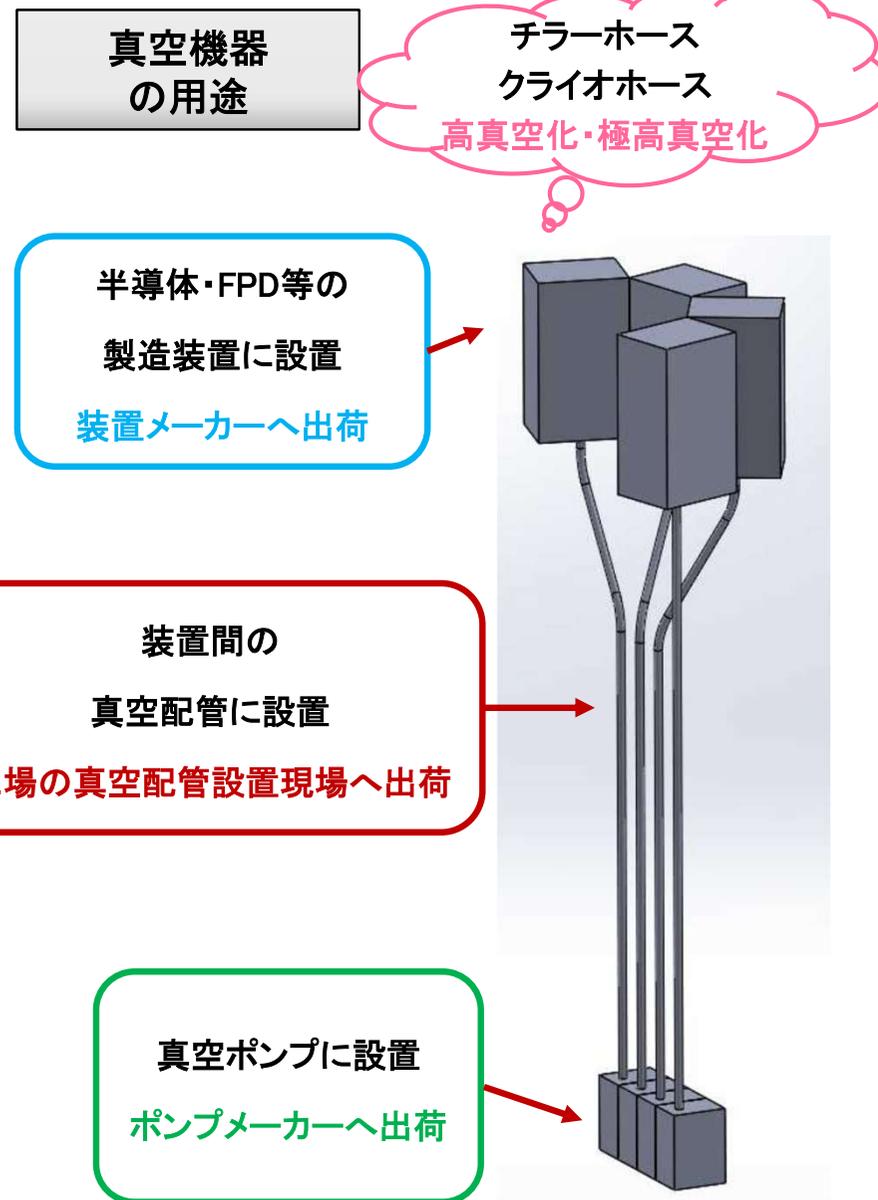


● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - 真空機器の需要が拡大。
- ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

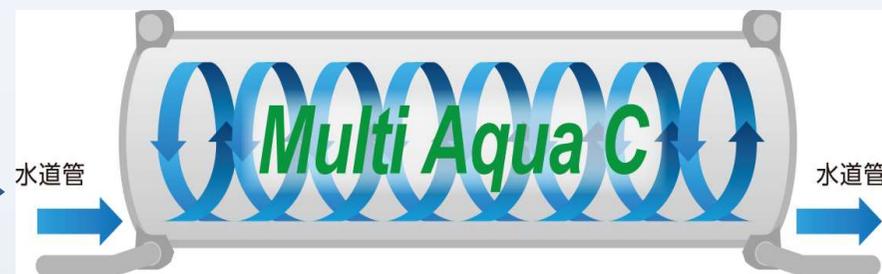
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

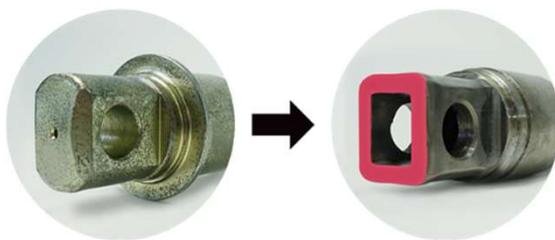
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボット	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり